雄谷理事長「第12回 JICA 理事長賞」受賞

当法人　雄谷良成理事長が、独立行政法人 国際協力機構 (JICA) の「第12回　JICA 理事長賞」(専門家 / ボランティア部門) を受賞しました。
この賞は、JICA の事業を通じて開発途上地域の経済および社会の発展に大きく貢献した個人・組織や事業に対し、その功績を讃え授与されるものです。
雄谷理事長は、ドミニカ共和国での青年海外協力隊の経験を生かし、障がい者や高齢者、子どもたちも“ごちゃまぜ”に暮らす地域開発を進めるとともに、帰国した協力隊員がその精神や経験を日本の地方創生に還元する道筋を示した点において評価を受けました。

NEWS

2016年9月
金沢市にグループホーム
リアンを開設しました。

日本財団より、日本海倶楽部にデリバリーカー、
B's に送迎車輛の助成をいただきました。

日本海倶楽部デリバリーカー

B's 送迎車

北國ほほえみ基金より、
生活支援ネット Be
日本海倶楽部 ステーションに
助成をいただきました。

赤帽石川県軽自動車
運送協同組合より
星が岡牧場に
助成をいただき
ました。

㈶ヤマト福祉財団より
グリル星が岡に車両の
助成をいただきました。

（敬称略）

寄付者一覧

本部・B's・三草二木寺行善寺

社会福祉法人ゆたか会小規模多機能型居宅介護どっこいしょ・米永栄子・白山市菓子組合・株式会社・コマツインターリング・西川隆子・中里愛・油谷直子・カナカン株式会社・トランテックス労働組合・関秀雄・中川好朗・あおぞら経営税理士法人　代表　中村厚・三谷産業メイ・シー（株）・樋地　正英・白山市産業部　農業振興課　農業基盤係　主事　須郷通人・白山市菓子組合・高橋謙始・西川マル子

星が岡牧場

金沢城・兼六園　管理事務所・辰口厚生保護女性会・林由香子・JA 能美山上第一・青柱年部・中尾栄一・高多秀樹・丸田均・北川古川・甲田光夫・岩田義雄・本吉邦子・北川幸恵・大槻宣昭・JA 能美・女性部・北川外茂行・前安雄・北国リース株式会社・厚生保護女性会・田中・四藤勝彦・（株）三崎ストアー・JA 能政部　青柱年部・公益財団法人ヤマト福祉財団・赤帽石川県軽自動車運送協同組合代表理事　石田聖悟

日本海倶楽部

出水勝美・永江等・飛田三洋・板倉兄一郎・泉広栄・東海久二・堂野前公子・倉田利子・高村美樹・河原進・細川農園

H&B日本海倶楽部クリスマスパーティ2015 協賛社一覧

A コープ内浦店・三谷産業メイ・シー（株）・（株）ダスキン北陸穴水営業所・（株）コーシン能登営業所・たまき酒店（有）・能登浄化槽管理センター・宇野酿業（株）・直川クリーニング（株）・羽咋工場（株）・ビッグオート（有）・アートプラザ273（株）・北陸サンライズ（株）・鍵主工業・ダートコーヒー（株）・七尾支店（株）・松波酒店（株）・北陸給食業務協同組合（株）・珠洲営業所（株）・丸菱・カナカン・七尾支店（株）・日本アンドシステム・コカ・コーラボトリング（株）・珠洲営業所・北栄パイピング（株）

表紙

待望の佛子園新本部竣工!!

あとがき

佛子園から始まったごちゃまぜは、今、全国の共通語となっている。

三草二木西圓寺　安倍真紀

発　行
妙林柿　77号
社会福祉法人　佛　子　園
石川県白山市北安田町548番地2
TEL 076－275－0616
MAIL headoffice@bussien.com
HP http://www.bussien.com
発行人　雄谷良成
発行日　平成28年10月15日

新しい働き方を考える特別座談会

座り過ぎの環境に立つ姿勢を取り入れるということ

10月10日（土）にグランドオープンした社会福祉法人佛子園法人本部では、上下昇降デスク「スイフト」を導入。雄谷理事長は、なぜ座る姿勢の中に立つ姿勢を取り入れたのか。立ち姿勢で働く、新しいオフィスのあり方について、「買い手」「売り手」「作り手」の3者の想いを語りました。

社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷良成 買い手 ×
株式会社山岸製作所 代表取締役社長 山岸晋作 売り手 ×
株式会社岡村製作所 マーケティング本部ソリューション戦略部 販促企画室室長 武田浩二 作り手

立ち姿勢で働く、新しいオフィスのあり方。

「楽しく健康に働ける環境を」

雄谷良成（おおや・りょうせい） 社会福祉法人佛子園理事長。金沢大学教育学部（理科専攻）の心理を研究。卒業後は石川市で特別支援学級を立ち上げ、教員として勤務。青年海外協力隊員としてドミニカ共和国へ派遣を経て、実家の社会福祉法人佛子園に戻る。スタッフが主体的に動き、動かす仕組みを考え、「スイフト」導入を決めるなど、地域コミュニティを主体としたものづくりに取り組む。

雄谷　立ち姿勢で働く、新しいオフィスのあり方。

山岸　地方ではオフィス家具のフェアがあまり開催されないこともあって、今年6月に思い切って「新しい働き方」フェアを開催しました。その時に雄谷理事長にもご案内状を差し上げたんです。これが佛子園様がオカムラの上下昇降デスク「スイフト」を導入するきっかけでしたね。

雄谷　あの時は会議用のテーブルを探していました。案内状をいただき、めったにないフェアなので行きたいと思っていたんです。偶然時間ができ、スッと入ってみると、あれ、なんか普通と違うものがあるなと。それがスイフトでした。会場におられた山岸さんから説明を聞いた時は衝撃でした。日本ではめずらしい着眼点ですよね。

武田　ありがとうございます。確かに立って働く姿は日本ではあまり見かけませんが、北欧のデンマーク、スウェーデンのオフィスではスイフトのような上下昇降デスクが当たり前なんです。ある研究によると日本人の多くは、起きている時間の半分以上は座っているという報告もあります。週末に運動する程度で座り過ぎのリスクが解消されるわけではない、ならばどうするか？対策として、北欧では立ち姿勢を取り入れるための上下昇降デスクが普及しています。

山岸　一定時間、同じ姿勢のまま働き続けてはいけないっていう法律があるほど、座り過ぎの健康リスクが叫ばれているんですよね。

雄谷　日本人は世界の中でも最も座って過ごす時間が長いみたいです。

武田　そうなんです。そこでオカムラでは健康維持とパフォーマンス向上のために、2014年から立ち姿勢を取り入れる働き方に着目、研究開発をすすめました。佛子園があるこの町は〈生涯活躍のまち〉認定の町なのですが、少しでも長く健康でいようという狙いなんですね。ちょうどそういったところに目を向けていた矢先でした。

山岸　スイフトを展示していたあのフェアは、まさにマッチングしたのですね。

雄谷　そうなんです。ハーバード大学の研究によると、運動不足が原因で亡くなる人は世界では10％であるのに対し、日本はなんと16％。6人に1人の割合って、結構なものですよね。運動しないと筋肉は落ちるわけですし、メタボにもなる。健康維持のためにも、1日の大半を占める働き方って何だろうと考えていた時だったんです。

武田　〈働き方〉〈健康〉にアンテナを立てていらっしゃったから、スイフトに着目していただけたんですね。

雄谷　考え方は以前から知っていたのですが、このような面白い机が国内にあるなんて、と嬉しかったですね。しかもおしゃれ。導入後、何人かのスタッフが立位で仕事をしていたんですが、見学に来られたお客様がその光景を見て「かっこいいので写真に撮っていいですか」と。それを見て現場はさらにやる気を出してくれましたね。

先進国で普及している働く姿勢の自由化

2015年に国内で初めての上下昇降デスク「スイフト」を発売しました。これからのオフィスにおいて〈健康〉〈コミュニ

「新しい働き方を金沢に広めたい」

山岸晋作（やまぎし・しんさく） 山岸製作所 6代目社長。オカムラの川崎唯一の特約店。オカムラとの取引は65年以上に及ぶ。全国のディーラー先駆けで金沢でスイフトフェアを実施。今後も石川での普及に熱意をみせる。

山岸　座り続けることが病を招くと言われ始めていますからね。4時間座り続けていることに対して、11時間座り続けている人の方が死亡リスクが40％上がるというデータもあります。

武田　体の中で何が起こっているのかはまだはっきり解明されていませんが、座っていると筋肉が収縮しないために血流が悪くなり、さまざまな生活習慣病を引き起こし、死亡リスクが高まるそうです

「佛子園」への応援メッセージ

佛子園の理念・方針は、「ごちゃ混ぜ」と表される。似たような意味でよく使われるのは「共生」だが、きまじめな印象になる。同じ街で、障がい者、高齢者、それに子どもたちが、ともに接するのは、当然のことながら簡単ではなく、「きまじめ」では限界があり、ときに何らかの反作用が起こることもある。

必要なのは「きまじめ」ではなく、人間味溢れ、懐深い、ユーモアのようなものだと思う。それに、「やってあげる」「やってもらう」が基本となる福祉は、ともすれば「見返り」や「依存」を生じさせ、破綻することも多い。

イタリア映画の巨匠であるF・フェリーニの往年の名画『道』に、象徴的な台詞がある。知的障がいだと思われる主人公のジェルソミーナが「自分には価値がない」と悩んでいるとき、友だちになった綱渡り芸人が、そばにあった石ころを拾って言うのだ。

「君はわかっていない。この石ころだって何かの役に立っている」

社会的に必要とされない人など存在しないという「佛子園」の哲学は、人間としての原点であり、普遍的真実である。

作家 村上龍

ごちゃまぜのまちづくり

What is "ごちゃまぜ"? (GOCHAMAZE)

私たちの街にはいろいろな住民がくらしています。お年寄りから若者・子どもまで。元気な人もそうでない人も、障がいのある人もない人も、日本人も外国人も。人間だけではありません。犬や猫、鳥や魚や虫、草や木も…。

最近、何やら物騒で心配ごとの多い私たちの身のまわりですが、その"ごちゃまぜ"な世界をじっくり見つめると私たちが進むべき未来の姿が見えてきます。私たち佛子園がめざす"ごちゃまぜ"とは何なのか？本部オープンに託した私たちの思いを紹介します。

BUSSI-EN Method

「あくびの伝染」!?

2007年タイム誌「世界に最も影響力のある100人」に選ばれたオランダの動物行動学者フランス・ドゥ・ヴァールは、著書「The age of empathy（共感の時代へ）」の中で人や動物が助け合い・慰め合い・共感し合う力はそもそも生まれ備わったものであり、「進化する」能力だといっています。

人がそうであるようにチンパンジーも仲間があくびをすると、また一人の赤ちゃんが泣き出すと、みんなが誘い合ったように同じような動きをします。「同調性」と呼ばれるこの動きは、人や動物が仲間の置かれた状況を自分の脳内でコピーすることで起こり「同一性」とも呼ばれています。まさに共感力ともいえるこの動きは、"ごちゃまぜ"な仲間たちとの共存がいかに大切かということを示しています。

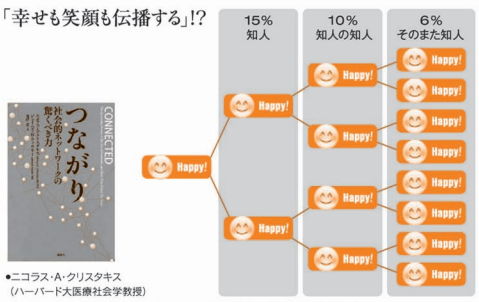
人も他の動物も孤立すると生存率は圧倒的に下がるといいます。私たちはこの本部が"ごちゃまぜ"な地域をつくる拠点となればいいと考えているのです。

「あくびの伝染」 ●フランス・ドゥ・ヴァール(動物行動学者) ●「The age of empathy（共感の時代へ）」 ●2007タイム誌「世界で最も影響力のある100人」

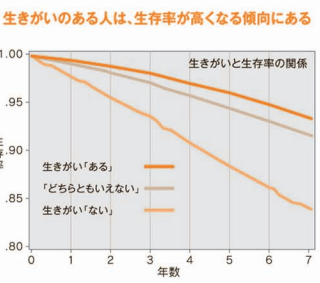
"ごちゃまぜ"＝生物多様性

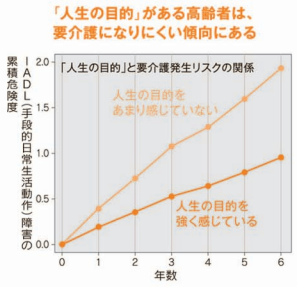
約三千万種ともいわれる地球上の生物。生物多様性とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのこと。生きとし生けるものすべて、単体では存在できません。それぞれがどのように関わっているのかを実感することは難しいかもしれませんが、人間も一人では生きていけないことは当然の事実です。逆説すると、地域や人と人のつながりが個々のくらしに大きく影響するということ。人生の目的や生きがいも"ごちゃまぜ"な中から生まれてくるのです。

「幸せも笑顔も伝播する」!?



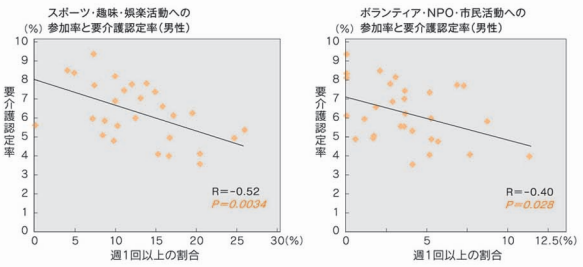
●ニコラス・A・クリスタキス（ハーバード大医療社会学教授）
●「CONNECTED（つながり）」より ●2009 タイム誌「世界で最も影響力のある100人」





「人生の目的」がある高齢者は、要介護になりにくい傾向にある

地域活動（ボランティア・趣味活動等）への参加率の高い地域は、要介護認定率が低くなる傾向にある



（資料出所）日本版CCRC構想有識者会議（第1回）辻一郎委員提出資料

- 日本人の死因の16%に運動不足が影響！
  - 世界では10%
  - 座ってPCを眺めるだけで1日を過ごす人が急増
  （ハーバード大学が提唱する「ビヘイビアヘルス」より）
- 「GOTCHA! WELLNESS」と「B's Clinic」が街のかかりつけとして健康をサポート
  - 地域に密着しながら住民を支える2本柱

世界を元気にした人は日本も元気にできる

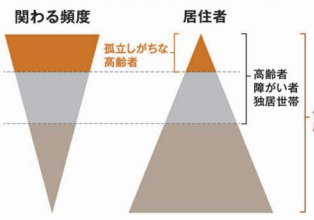
2015年8月、佛子園はJOCA（公益社団法人青年海外協力協会）と連携協定を結びました。JOCAは青年海外協力隊で培った精神と経験を広く社会に還元することを目的として設立され、毎年帰国する千人の隊員をはじめ全国に四万人を超えるOBOGを有しています。

県内に広がりを見せるわが法人の"ごちゃまぜ"のまちづくりは、輪島KABULET®プロジェクトを皮切りに、パートナーとなったJOCAとともに全国へ展開されていきます。

国土強靭化について

激甚災害にみまわれるニッポン。「国土強靭化」といいますが、河川・河岸・堤防等いわゆるハード施策に目がいきがちです。2011年の東日本大震災では、当法人やJOCAも多くのスタッフを救援に送りましたが、被災後仮設住宅に移り孤立し自死に向かう多くは高齢者、障がい者、あるいは独居世帯でした。そんな中、唯一仮設居住終了まで自死ゼロというのが宮城県岩沼市。仮設の多くは、住民の希望地抽選で行き先が決定していきます。家を無くしたり、家族を亡くしたりといった未経験のヘビーストレスにまったく知らない人とのくらしを新たに作り上げる苦労…。岩沼市は被災地域ごとに避難させ、地域で培った人のつながりを大切にしながらこの未曾有の災害を乗り切りました。

真の国土強靭化とは、人と人のつながりのこと。いつくるかわからない大自然の驚異に立ち向かえるのはやっぱり「強くてしなやかな」"ごちゃまぜ"の街だといえるのです。



"ごちゃまぜ"で描くJAPAN WAY

従来の病院や福祉施設には、サービスを必要としない人を集める仕組みはありません。一方、"ごちゃまぜ"な街では、年齢、障がいや疾病のあるなしにかかわらず様々な人が日常的に関わることとなります。そのつながりが単に地域でのくらしを支えるだけでなく、住民の生きがいやりがいを生み出し、高齢者においては介護予防や健康寿命の増加、若者においては地域定着、そんな元気な人たちに見守られ地域社会に育まれていく子どもたちが明日の日本を創り上げていくのではないでしょうか。

世界のどの国も経験したことのない人口急減・超高齢化「先進国」ニッポン。私たちが切り開こうとしている道は、"JAPAN WAY"。同様な状況を迎えようとしている諸国の道しるべになる、そんな時も近い将来なのかもしれません。

私たちの法人理念はPLVS VLTRA（プルス ウルトラ）〜さらに彼方へ〜

1996年から始まったBUSSI-EN overseas training。

2010年「法人50周年は式典や記念誌発行などの形式にとらわれず、法人100年の計としたい。法人の進むべき未来とは？」この年いよいよ新本部のグランドデザインが策定され、温泉掘削を皮切りに新本部の完成を目指すことになりました。これを機に海外研修は本格的に形を変え「人が生きることの意味」「幸福とは何か？」という命題に取り組んでいくことになりました。

ニュージーランド(2015年 11月)

ブータン皇太后陛下来日(2014年 3月シェア金沢)

2010年	ブータン	GNH (Gross National Happiness)	国民総幸福
2011年	南フランス	WVS (World Values Survey)	主観的な幸福度
2014年	コスタリカ	HPI (Happy Planet Index)	地球幸福度
2015年	ニュージーランド	SPI (Social Progress Index)	社会進歩指標
2016年	フィジー	Sharing Economy	⋮

年間約1,000人の帰国隊員

120職種以上の多様な専門性を持った人材

青年海外協力隊のOBOGが日本各地で「地方創生事業」に取り組んでいます。

法人基本理念 "PLVS VLTRA" さらに彼方へ

わたしたちは一人ひとりが
暖かいまなざしと和やかな笑顔
やさしいことば　感謝と思いやりの心
譲りあう気持ちを忘れず
心に安らぎと生きるための
ゆとりを提供できるよう努めます

BUSSI-EN
Social Welfare Organization
Since 1960

交流招待一覧

本部・B's・三草一本寺行善寺

橋本明・柳井雅・木下昌・山崎・明和特別支援学校・金沢福祉医療機構・石川県社会福祉協議会・国土交通省・長野県・新潟県・富山県・福井県・滋賀県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県・北海道・青森県・岩手県・秋田県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・静岡県・愛知県・三重県・岐阜県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫